

博士学位論文 審査結果の要旨

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 博士（後期）課程
博士学位論文審査委員会

主 査 田中秀穂

審査委員 守田 優

審査委員 高崎明人

審査委員 志手一哉

審査委員 薄上二郎（青山学院大学）

審査委員 中村 潤（中央大学）

氏 名	松木 知徳
論文題目	非正規従業員の働くモチベーションに影響を与える要因の経時変化 － 飲食チェーンでの実証研究 －
〔論文審査の要旨〕 最終審査会は、令和2年5月9日に実施した予備審査における合格を受けて、同年7月25日にオンラインでの公聴会として、審査委員6名（学内委員4名、学外委員2名）、傍聴者20名の参加のもと行った。申請者からの約60分のプレゼンテーションに続いて質疑応答を行い、その後、審査委員により審査を実施した。 本論文は、飲食チェーンにおける非正規従業員の働くモチベーションに影響を与える要因の経時変化に着目した分析を通じて、飲食チェーンの経営課題である非正規従業員の働くモチベーションを踏まえた店舗運営のヒントを提供することを目的としている。理論的基礎として、Herzbergの「二要因論」を応用し、飲食チェーン3社における非正規従業員へのアンケート調査によって、勤続期間ごとのグループを比較することで働くモチベーションの経時変化を明らかにした。具体的には、働くモチベーションに影響を与える因子を探索的因子分析によって抽出し、非正規従業員の働くモチベーションと要因との関係をモデル化した。そのうえで多母集団同時分析によって勤続期間による差異を分析した。その結果、働くモチベーションとその要因において、非正規従業員では正規従業員とは異なる要因の低下を確認した。さらに、働くモチベーションに影響を与える要因は外発的動機づけ要因から内発的動機づけ要因へとシフトすることを確認した。さらに、この検証結果に対して実務者から評価を受け、ビジネスの現場にいる経営者らにとって本知見が店舗運営のヒントとなり得るという裏付けを得るなどの成果を得た。プレゼンテーションと質疑を通じて、予備審査において指摘された、勤続期間の区分の根拠や図表中の表現の問題などについても、修正がなされていることを確認した。 研究業績としては、英文の査読論文が3報、邦文の査読論文が1報、国際学会での発表が2件、国内学会での発表が8件あり、また、2019年に日本マーケティング学会でベストオーラルペーパー賞を受賞し、さらには補助金の獲得もあるなど、十分な業績であることを確認した。以上を踏まえた学位審査評価シートによる評価において、全ての審査委員から高い評価を得て、博士論文として十分なレベルにあることを満場一致で確認し、合格と判定した。	